

技術指導申請書 (日本語)

기술지도 신청서 (일본어)

申請番号: KJC-2026-0091

☑ 翻訳者: 관리자 (admin)

📅 完了日: 2026-09-29 15:42:43

企業概要	企業名 (英文)	LMS.Co.,Ltd		
	所在地	京畿道(キョンギ・ド)平沢市(ピョンテク・シ)		
	業種	☐ 機械 / 重工業 (工作機械、産業機械、建設機械、プラント設備) ☐ 金属 / 素材 (鉄鋼、非鉄金属、合金、新素材[炭素繊維、セラミックス等]) ☒ 電気 / 電子 / IT (半導体、ディスプレイ、電子部品、通信機器、電子機器) ☐ 自動車 / 輸送機器 (完成車、自動車部品、鉄道・航空・船舶部品) ☐ 化学 / 石油化学 (精密化学、高分子・プラスチック、合成樹脂、機能性素材) ☐ エネルギー / 環境 (二次電池[バッテリー]、水素、新エネルギー、環境設備) ☐ 食品 / 生活用品 (加工食品、飲料、消費財生産) ☐ 繊維 / ファッション (一般繊維、機能性繊維、衣料製造) ☐ バイオ / 医療 (医薬品、バイオ素材、医療機器、ヘルスケア) ☐ その他		
	設立年度	1999年	従業員数	190名
	主な生産品	IR Cut-off Filter		
	ホームページ	www.lmsglobal.com		

技術指導 申請情報	指導希望期間	2027年 1月 ~ 3月 (3ヶ月)		
	指導方法	☒ オフライン (訪韓指導) : 日本の技術者を企業の製造現場に招待して指導を受ける形式 ☐ オンライン (遠隔画像指導) : Zoom、Teams、Google Meetなどのビデオ会議プラットフォームを活用して指導を受ける形式 ☐ オン+オフライン並行指導		

	指導希望内容	1) ディスプレイ用高純度RGB色素の実現に向けた、色素のショルダーピーク（Shoulder Peak）制御のための分子設計に関する技術指導
		2) 高信頼性染料（ポルフィリン / フタロシアニン）誘導体の置換基調整による光学特性（FWHM最小化）の最適化技術に関する技術指導
		3)
	技術指導希望分野	☒ 研究開発（新製品 / 新技術研究、新素材開発、プロトタイプ製作） ☐ 設計（製品設計[CAD/CAE]、回路設計、金型 / 治工具設計） ☐ 生産技術（工程設計、生産ライン構築、生産性向上、自動化推進） ☐ 製造（加工、組立、成形、溶接、組立ライン運営） ☐ 品質（品質検査、不良分析、ISO / KS認証対応、品質改善活動） ☐ 設備 / 保全（生産設備点検、故障対応、予知保全、ロボット / 自動化設備管理） ☐ 生産管理（生産計画立案、資材所要量管理[MRP]、原価 / 納期管理） ☐ 購買 / 資材調達（原材料購買、協力会社管理、サプライチェーン管理） ☐ 物流 / 在庫（原材料入出庫、製品出荷、物流自動化） ☐ 安全 / 環境（労働安全管理、環境規制対応、ESG経営支援） ☐ 市場調査（産業動向、競合分析、新技術トレンド調査） ☐ その他
	悩み技術製品写真	

申請のきっかけ	技術指導事業申請のきっかけ
	当社は、次世代ディスプレイの色再現性を最大限に高めるため、高純度RGB色素の開発を推進しています。 現在、ディスプレイの色差改善に向けて、ポルフィリン（Porphyrin） / フタロシアニン（Phthalocyanine）など、信頼性に優れた系統の染料を評価しています。しかし、これらの物質に固有の特性であるショルダーピーク（Shoulder Peak）が発生するため、RGBの色純度の確保に課題を抱えています。 ショルダーピークは、染料の吸収極大波長との関係で隣接するRGBの色に影響を及ぼし、製品品質に影響を与える主要な要因となっています。 そこで当社では、分子構造の精密な制御・設計を通じてショルダーピークを根本的に抑制し、ディスプレイ用途に最適化された新規色素の開発を目指し、本技術指導事業に申請しました。

期待効果	日本技術者指導の必要性および期待効果
	- 日本は有機電子材料および分子設計分野において世界トップレベルの技術力を有しており、特にディスプレイ用染料の構造制御および光学特性の最適化分野において、高度な技術力を有しています。 - 指導の必要性： 韓国国内の研究レベルだけでは解決が難しい、ポルフィリン / フタロシアニンの微細構造のチューニング（構造制御・分子設計）によるショルダーピーク抑制技術については、日本の専門技術者による高度かつ専門的な指導が必要です。単なる化合物の合成技術にとどまらず、光物理的なメカニズムに基づいた分子構造の改善・設計技術の習得が必要です。 - 期待効果： 日本人技術者による技術指導を通じてショルダーピークを除去した高純度色素の開発に成功した場合、ディスプレイの色再現性を大幅に向上させ、グローバル市場における技術競争力の確保につながることが期待されます。 また、今回の技術指導事業を通じて習得した分子設計技術は、当社における次世代材料の製品ラインアップ拡充にも大きく貢献するものと期待しています。